

# カリキュラムの考え方と特色

< 高松短期大学 保育学科 >

## はじめに

今、「児童の権利に関する条約」の批准（平成6年4月）等を背景として、「それぞれの子どもの成長段階に最適の養育」が実現されるように、「子どもの最善の利益の尊重」を基本理念として「一人ひとりの子どもが個性豊かでたくましい自立した社会人として成長できるように環境を整えていく」ことの必要性が指摘されています。このために、「多様な子育て支援システムの整備」を図り、「利用者が適切な保育サービスを選択できるようなシステム」を構築しなければなりません。具体的には、エンゼルプランや緊急保育対策等5か年事業が平成7年度から開始され、平成11年には新エンゼルプランによってよりいっそうの保育所の機能強化をはじめとして保育所以外の保育サービスを含めた子育て支援体制が整備されつつあります。それと同時に、保育所と老人福祉施設の複合施設が設置されたり、幼稚園の側でも機能の強化が図られ、施設利用者の側からみると幼稚園と保育所の機能が大きく接近しつつあります。

また、香川県は、安心して子どもを産み育てる環境づくりを進め、少子化に歯止めをかけるために「かがわ・いきいきエンゼルプラン」を策定し、平成13年度からは「かがわエンゼルプラン 21」が新たに策定して、子育てを支える様々な取り組みを行っています。

これから保育の世界に一步を踏み出そうとしているあなた方一人ひとりへの期待には、とても大きなものがあります。もちろん、責任も大きなことを忘れないで……。

この小冊子では、このような保育の新しい時代を担う保育者を育てるために、私たちが用意したカリキュラムの特色と考え方をみなさんにお伝えするものです。よく読んで、あなた方の学習に役立ててください。

## < 目次 >

### はじめに

#### 1．保育学科の目指す保育者像

- (1)しっかりした子ども観・保育観を有し、子どもの最善の利益を尊重することのできる保育者
- (2)子どもへの共感的理解能力を有する、即戦力としての幼児教育・保育のスペシャリスト
- (3)主体的に保育活動に取り組む、自己研修力を備えた保育者
- (4)少子・高齢社会に向けて福祉の本質を体得した保育者
- (5)子育てに対する多様な支援システムの拡充を支える保育者
  - 幼稚園や保育所と家庭及び地域社会との連携に貢献できる保育者
  - 障害児保育の素養を有する保育者
  - 幼稚園や保育所以外での子育てに対する多様な支援システムを支える保育者
- (6)高度情報化社会に対応する保育者

#### 2．教育課程編成の考え方及び特色

- (1)カリキュラム構成原理
- (2)教育内容の厳選による、ゆとりある学生生活の実現
- (3)保育所や幼稚園及び養護施設等における実習科目の重視
- (4)研究室を基盤とする研究指導 - 卒業研究

#### 3．社会からのニーズに応える今日的専門科目

- (1)「保育学研究法」
- (2)「子ども研究」
- (3)「教育実習事前事後指導」
- (4)「保育環境論」
- (5)「教育相談」
- (6)「障害児保育」他、障害者との共生をめざす科目群
- (7)「教育の方法及び技術」
- (8)「野外体験実習」
- (9)レクリエーション関連科目

#### 4．その他

研究室制度を母体とした全学的行事の教育課程への位置付け

## 1. 保育学科の目指す保育者像

私たちは、今後の保育者ニーズに的確に応えるとともに保育実践を通して自ら成長することのできる保育者を育成する観点から、次に掲げる能力をもった保育者を育てたいと考えています。

### (1) しっかりした子ども観・保育観を有し、子どもの最善の利益を尊重することのできる保育者

私たちは、子どもの人格や存在、人権をしっかり認識した上で、科学的な子どもの発達理論・発達観を備え、科学的に物事を見る目を有する保育者を育てます。つまり、しっかりした子ども観・保育観をもち、福祉の心と科学的な目に裏打ちされた技術、いわゆる福祉の3つのH (heart, head, hand) を有する保育者を育てます。

また、「子どもが豊かな愛情と自分が受け入れられているという安心感の中で、情操や知識欲を育てたり、人間性や社会性を自然に伸ばすための社会環境の中で、それぞれの子どもに最善の子育て」が提供されなければなりません。このためにも私たちは、あなた方一人ひとりに、保育者として何よりも重要な子どもの最善の利益を尊重する真摯な態度を身につけてほしいと思います。

### (2) 子どもへの共感的理解能力を有する、即戦力としての幼児教育・保育のスペシャリストの育成

「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」、つまり「生きる力」を子どもたちに育む上で、乳幼児期はその基盤になります。

そこで、私たちは、「生きる力」を育てることのできる保育者に求められる「豊かな人間性と専門的な知識・技術や幅広い教養を基盤とする実践的な指導力」、子どもの立場になって考え、子どもの気持ちを汲み取ることのできる子どもたちへの共感的理解能力の育成を重視します。そして、子どもの成長を乳幼児期全てにわたって総合的に理解し、成長の援助をすることのできる保育のスペシャリスト、保育の現場への即戦力の育成を目指します。

### (3) 主体的に保育活動に取り組む、自己研修力を備えた保育者

保育の現場では、子どもたちとの一瞬一瞬が真剣勝負です。もちろん、保育者一人ひとりには高い資質に裏付けられた高度な判断力が求められます。そこで、私たちは保育者として主体的に保育にたずさわることのできる保育者の育

成を図り、日々の保育実践を通して、子どもに学びつつ自らの資質を更に高めることのできる保育者を育てます。

また、今日の急速な社会変化の中で社会の価値観が多様化するとともに、保育に対するニーズも多様化しています。このような状況に対応するためにも、刻々と変化する保育環境において日常的に生じる保育上の問題を鋭く把握し、解決しながら有能な保育者へと自ら成長することのできる保育者の育成を目指します。

#### **(4) 少子・高齢社会に向けて福祉の本質を体得した保育者**

少子・高齢社会への対策として、保育所・特別養護老人ホーム等の複合施設の設置やボランティア体験を通して子どもたちへ多様な生活経験を提供することなどが今後ますます求められます。子育て支援の領域において中心的な役割を果たす保育者は、広く福祉の概念を理解し、未来の少子・高齢社会を支える子どもたちを育成しなければなりません。そのためにも、私たちは教育課程にボランティアを位置付けて、福祉の本質を実体験を通して体得した保育者を育てます。

#### **(5) 子育てに対する多様な支援システムの拡充を支える保育者**

##### **保育所や幼稚園と家庭及び地域社会との連携に貢献できる保育者**

社会全体の「ゆとり」を目指した労働時間の短縮や、間直に迫った学校完全週5日制の実施にむけて、子どもたちの成長・発達における家庭の重要性が急速にクローズアップされています。しかし、夫婦共働き家庭が一般化するとともに、低年齢時の保育、保育時間の延長や一時保育など保育ニーズは多様化しつつあります。また、核家族化や社会の変貌により、家庭や地域社会の子育て機能の低下が危惧されます。さらに、育児情報が氾濫することにより子育てに対する不安が増大したり、子育てを母親ひとりで抱えることで孤立化するという問題も見られ、夫婦共働き家庭やひとり親就労家庭などのみならず、専業主婦家庭も含め幅広く子育て家庭に対する支援が必要となっています。

幼稚園や保育所は、子育てに関するノウハウをこのような問題解決のために積極的に活用することが望まれます。また、地域の子育てサークルや子育てボランティアの支援など地域における子育てネットワークを組織し、その中で、子育ての専門的なセンターとしての機能が求められます。

私たちは、こうしたニーズをふまえ、そのようなセンターにおいて求められる保護者への指導力や、「子育て支援ネットワーク」の中で主体的に貢献することによって、幼稚園や保育所と家庭及び地域社会との連携に貢献することの

できる保育者を育てます。

### **障害児保育の素養を有する保育者**

障害を有する子どもと健常児が乳幼児期にともに生活することは、偏見や差別のない社会を築くためには欠かせません。ノーマライゼーションの社会的な高まりの中で、保育所における障害を有する子どもの数は今後一層増加するでしょう。

そこで特に、私たちは、処遇困難児に関する精神保健・臨床心理学的な知識やカウンセリングなど心理療法的な技術を有する保育者を育てます。

### **保育所や幼稚園以外での子育てに対する多様な支援システムを支える保育者**

21世紀の日本社会を支える担い手を育てる子育てについては、社会全体で支援していくべきです。そこで、子育てを社会全体で支援していくために、保育所に加えて、保育所以外の保育施設、ベビーシッターサービス、家庭的保育（保育ママ）、子育てサークルなどの地域の保育資源の活用が求められます。

私たちは、子育てを社会全体で支援する多様なシステムの構築と運営に資する人材の養成に積極的に貢献します。

### **(6)高度情報化社会に対応する保育者**

急速に進行しつつある高度情報化社会に対応して、私たちは、各種の情報関連機器を駆使し、様々な教育メディアを活用して教育方法を豊かなものにするとともに、インターネット等を通じて、保育情報を獲得することによって自らの保育内容を充実させるだけでなく、自ら情報発信して保育界に貢献できる素養を育てます。

このような素養は、保育センターとしての保育所をはじめ、地域社会における保育資源の活性化や子育てネットワークの全国化、ひいては、子育てを社会全体で支援する多様なシステムを情報面からサポートするものです。

以上の観点から、本学保育学科における保育者養成においては、保育者に求められる幅広い教養と豊かな人間性を基盤として、保育者に求められる専門的知識と技能が身につけられるようにカリキュラムを構成しました。

## 2. カリキュラムの考え方及び特色

### (1)カリキュラム構成原理

保育者養成においては、それぞれの科目を大別すると保育実践のための「間接的・原理的科目」と「直接的・実用的科目」に大別することができます。ところで、一般的な傾向として、短期大学における保育者養成カリキュラムでは、即戦力養成に名を借りたいわゆる「即席保育者養成」に陥って「直接的・実用的科目」に偏ってしまう例も少なくありません。しかしながら、そのような保育者養成では、しっかりした保育理念をもって主体的に保育実践を行い、その過程で自ら成長することのできる保育者を養成することはできません。

そこで、私たちは、保育者にとってもっとも日常的な保育実践の成果について、決して主観的な満足に甘んずることなく、満足の行かない結果についてもみだりに自信を失うことのない保育者、絶えず子ども一人ひとりの成長・発達の状況を確認し、そのいっそうの成長のために必要な努力を怠らない保育者を育てたいと考えました。これを実現するために、日々の保育実践を支える保育の理念や歴史・制度といった「間接的・原理的な科目」を軽視することなく、保育哲学を学生一人ひとりに醸成する意図のもとに科目構成を検討しました。

具体的には、各科目を 保育・教育の本質と目的を理解するための科目、保育・教育の対象を理解するための科目、 保育・教育の内容と方法に関する科目、 保育実習・教育実習の4つの柱から構成しました。詳細は、資料に示す通りです。

なお、従来は「基礎技能」として位置づけられていた「音楽」「体育」「図画工作」を「 保育・保育の内容と方法に関する科目」に組み入れ、授業が単なる訓練に終始することなく、教育と保育の本質及び原理に照らして、将来保育者に求められる技能とは何かと常に問い続けられながら、本学での養成教育が展開されることを意図しているところに大きな特色があります。

### (2)教育内容の厳選による、ゆとりある学生生活の実現

保育士資格と幼稚園教諭免許状の取得を同時にめざすためには、数多くの科目を履修しなければなりません。そのために、資格取得に必要な最少限の科目に加えて多くの選択科目を用意することは、かえって学習上の消化不良を誘発するとともに、過密な時間割によるゆとりのない学生生活を強いる結果になってしまいます。

よって、本学のカリキュラムでは、いたずらに科目数を増やすことなく、本学の人材養成のねらいに沿って教育内容を厳選しました。そして、2年間で、あ

なた方一人ひとりが十分にゆとりをもって、それぞれの教育内容をかみしめながら、豊かな学習経験を積み重ねることができるように配慮しています。

### **(3) 保育所や幼稚園及び養護施設等における実習科目の重視**

充実した実習体制は、本学の保育者養成における大きな特色であり、常に理論と実践との接点を開拓する本学の教育理念の現れでもあります。

具体的には、1年生の後期から観察実習を開始し、幼稚園教諭の免許を取得するためには教育実習6単位、保育士資格を取得するためには保育実習7単位を履修します。こうして、卒業時まで実習を多く経験することができ、充実した即戦力養成が実現できるのです。

### **(4) 研究室を基盤とする研究指導 - 卒業研究**

建学の精神を体現する2年間を通じた研究室単位による研究指導は、主体的に保育活動に取り組む、自己研修力を備えた保育者の育成をめざす中核的科目として位置付けられます。本学では、その四半世紀にわたる歴史において、建学の精神（一．対話にみちみちた、ゆたかな人間教育をめざす大学、一．自分で考え、自分で行える人間づくりをめざす大学、一．個性をのばし、ルールが守れる人間づくりをめざす大学、一．理論と実践との接点を開拓する大学）を体現する1つの大きな柱として、研究室制度の充実を図ってきました。

具体的には、各研究室が専任教員によるゼミナールと卒業研究及び生活指導の場、学生相互の学習及び人格形成の場、心のコミュニティを確保する場として機能し、学生と教員が、学問研究を通じて切磋琢磨する場となっている。1研究室あたりの学生数は10名程度（1学年）であり、一人ひとりの学生に対してきめ細かな指導が可能です。研究室制度によって、あなた方一人ひとりが、生涯学習社会に対応した研究能力・自己研修能力を有する保育者としての高い資質を身につけることができるのです。

他方、研究室での活動は、学問研究のみならず、研究室単位での新入生歓迎行事や大学祭への参加を通じて、学生相互の友情は確固たるものとなり、豊かな人間関係のなかであなた方一人ひとりがさらに大きく成長します。

このような体制の下、1年生前期においてみなさんは、研究室活動と平行して「保育学研究法」を履修し、保育研究に必要な素養を徹底的に習得します。その後、各研究室で、それぞれの専任教員の専門知識・技術を十分に生かしながら少人数での徹底指導が行われます。その成果は、卒業研究という形に結実します。卒業時には、卒業研究発表会を行い、単に論文をまとめるにとどまらず、発表・討議を通して、みなさんの一人ひとりが将来各種の研究会や研修に

において中心的な役割を果たすことを目指しています。

### 3．社会からのニーズに応える今日的専門科目

私たちは、単に保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のための単位要件を満たすだけの科目設定にとどまらず、本学が目指す人材養成のための科目を設けて本学独自の個性的な大学教育が行えるようにカリキュラムを編成しました。

#### (1)「保育学研究法」

保育者として育つことは、単に養成課程における完成教育に止まるものではなく、日々の保育実践を通じてなされるものです。しかしながら、保育者自らが学び、研究する素養としての自己研修力を身につけておかなければ、より資質の高い保育者として大きく成長する機会を逃してしまいます。

よって、私たちは、創設以来、建学の精神を体現する研究室制度を通して、学生一人ひとりにその力を育成し、大きな成果を残しています。今後も、研究室制度をより一層実の有るものにするために、「保育学研究法」を1年生前期の必修科目として位置付けます。そして、受動的な学習態度から脱却することによって、自ら問題を発見し、学び、研究を積み重ね、その問題の解答を自ら見出せる力の基礎を培うことをねらいます。

#### (2)「子ども研究」

最近の学生たちに子どもと触れ合う機会が極度に不足している実態に鑑みて、保育現場での実地体験を重視した、具体的に子どもを理解するための指導を行います。

園の中で遊んだり、いろいろな活動をしたりする子どもの生の姿に触れるとともに、子どもの遊びに参加することによって、みなさんは、その楽しさ・喜びや感動、時には遊びの失敗による挫折感などを共有・共感することができるよう経験を重ねます。こうして、実際の子どもの姿と生活を通して、子どもの心の動きや行動などを実地に理解することができます。

さらに、子どもを理解する能力の促進を図るために、実地での体験をみなさんがお互いに持ち寄って、発表、討議・検討を重ねつつ、指導教員からの助言・指導によってみなさんの子ども理解を補充・深化します。そして、遊びを中心にした生活による総合的な成長・発達の過程を理解するとともに、子どもへの観察眼、積極的かつ意欲的に学ぼうとする姿勢や態度を涵養し、自ら主体的

に保育に取り組む素地が形成されるのです。

### (3)「教育実習事前事後指導」

本学は設立当初から、高松幼稚園及び高松東幼稚園の2園にて、1年生の後期から観察実習を開始することによって、長期にわたる実習を実現するとともに2年生時における教育実習をより実のあるものとして大きな成果をあげ、保育の実践力を学生一人ひとりに育ててきました。この点は、香川県内外における幼稚園に多くの教員を輩出している実績が示すとおり、社会の広く認めるところです。「子ども研究」とセットでみなさんは保育の実践力を高めることができます。

### (4)「保育環境論」

環境というと自然環境を連想する人が多いかもしれませんが、もちろん、自然環境も子どもの成長・発達に大きな影響を及ぼしますが、広く生活環境を考えた場合、子どもの生活の主要な部分を占める家庭や地域社会の重要性を改めて見直す必要があります。特に「家庭教育は、乳幼児期の親子のきずなの形成に始まる家族との触れ合いを通じ、『生きる力』の基礎的な資質や能力を育成するものであり、すべての教育の出発点」です。しかしながら、核家族化や少子化の進行に伴う家庭の教育力の低下は著しく、「本来、家庭教育の役割であると考えられるものまで学校にゆだねようとする傾向」が目立ちます。

また、「地域社会での活動を通しての子供たちの生活体験や自然体験は著しく不足していると言われ、また、都市化や過疎化の進行、地域における人間関係の希薄化、モラルの低下などから、地域社会の教育力は低下」しています。

そこで私たちは、今後、家庭教育を基盤として、地域社会の中で様々な生活体験や社会体験及び自然体験を豊富に積み重ね、一個の人間として「生きる力」を養いながら成長する子どもについて、幼稚園及び保育所と家庭や地域社会の連携を図り、子育て支援の指導的役割を担う素養を育てます。

### (5)「教育相談」

いろいろな育児情報が保護者の育児不安を駆り立てる一方で、少子化にともなう教育熱は今後さらなる高まりを見せるでしょう。また、学歴信仰は依然として根強く、受験競争のスタートは徐々に低年齢化し、乳幼児期から子どもたちはそのレールの上に乗せられることが珍しくはなくなりつつあります。

その結果、子どもたちには様々なストレスがかかり、保育現場において突然奇声を発したり、慢性的な疲労を抱えながらの生活を強いられている子どもは

少なくありません。しかしながら、この様な子どもは、概していわゆる「よい子」である場合が多く、保護者の愛情を失いたくないがゆえに大きなストレスをその小さな胸の中にためこんでしまう場合が多いのです。「切れる」子どもたちの原因も、この辺にあるかもしれません。

私たちは、このような子どもたちが、ストレスを抱えることなく生き生きと、そしてたとえストレスがかかっても自らそれに打ち勝つことができるような「生きる力」の素養を子どもたちに養う力量をもった保育者を育てます。

#### (6)「障害児保育」他、障害者との共生をめざす科目群

ノーマライゼーションの理念に基づき、人権が真に守られる社会の実現に向けて、障害を有する子どもと健常児が共に生活する保育のあり方を指導します。特に、「社会福祉」や「養護原理」等の関連諸科目との関連を図りながら、ケースワークをはじめ、家庭や地域社会との関わりなど実地的な指導方法にも十分配慮します。

#### (7)「教育の方法及び技術」

「マルチメディアなどの情報化が進展する中で、知識・情報にアクセスすることが容易となり、入手した知識・情報を使ってもっと価値ある新しいものを生み出す創造性が強く求められる」ようになっていきます。そこで、この授業においては、伝統的な教育方法及び技術の枠を広げ、本学に十分に整備された情報機器を多用して、高度情報通信社会における情報リテラシーを育成します。また、最近、インターネット上にホームページを開設する幼稚園が増加しつつありますが、通信ネットワークを活用して、幼児教育・保育に関する情報の収集・交換を図るとともに自ら情報発信できる素養を獲得することを通して、子どもたちの保育のための素材を豊かにする力を育てます。

#### (8)「野外活動実習」

今日、都市化、地域の教育力の低下、自然の減少により、子どもたちの生活体験や自然体験が失われつつあると言われていています。しかし、このことは、何も子どもたちに限ったものではなく、これから保育者になろうとするみなさんについても同様でしょう。

そこで、野外活動実習として自然体験学習をみなさんに義務付けています。これを通して、子どもたちに豊かな生活体験や自然体験を指導することのできる保育者になるとともに、環境問題についてもより一層の認識を深めてください。

#### **(9)レクリエーション関連科目 - 「レクリエーション概論」「レクリエーション実技」「レクリエーション指導実習」**

レクリエーションによって遊びから価値を引き出し、生活を活性化するための知識や技術の獲得は、遊びを基本とした乳幼児の生活をより豊かにするためには重視されます。子どもたちが「ゆとり」ある生活の中で「生きる力」を楽しみ遊びを通して、友達との豊かな人間関係を通じ、様々な体験を重ねることによって獲得できるようなレクリエーション指導能力を育てます。

また、レクリエーションに関する科目は、単に乳幼児に止まらず、児童・青少年をはじめ高齢者に至るまで、その生活をより豊かにするためには重要です。「子供たちの地域社会における活動を充実するためには、地域社会や施設で子どもたちの指導にあたり、地域社会の人々の自主的な取り組みを支援する者」の養成・確保が求められますが、これらの科目はまさにこれらの要求に応えるものであり、子ども会活動や地域社会における子どもと大人、特に日本の良き伝統の保持・伝達者としての高齢者との触れあいの仲介者として活躍が期待されます。

#### **4 . その他**

##### **研究室制度を母体とした全学的行事の教育課程への位置付け**

前述のとおり、本学の優れた特色である研究室制度は、本学における学生の生活単位として有効に機能しています。研究室制度は、単に学習活動のみにかかわらず、従来から、研究室単位に新入生歓迎行事や大学祭等の行事に主体的に参加することによって学生一人ひとりの自発性や自主性を育てるとともに、学生及び教員の全員参加によるコミュニケーションと一体感を醸成し、学生たちの内面の教育に大きな成果を挙げています。

また、これらの行事に研究室単位に参加することを単なる参加に止めず、幼稚園で行われている運動会やおゆうぎ会のシミレーションとして行うことによって、実践的な指導力の育成を今後も重要視していきたいと考えています。

\*もっと詳しく知りたい方は、松原勝敏「短期大学における保育者養成カリキュラムに関する一考察 - 高松短期大学児童教育学科の幼児教育学科への改組転換 - 」『高松大学紀要』第29号、25-49頁、平成10年3月、をご参照下さい。

## < 資 料 >

### 1．カリキュラム概念図

本学が目指す保育者養成を達成するために編成されたカリキュラムの概念を図式化しました。建学の精神を基盤として、実習を中心に、他の関連諸科目が有機的に関連することを目指しています。

### 2．保育学科カリキュラム系統概念図

2年間の学習課程における、保育者養成のための学科目や研究室活動の流れやウエイトを図式化しました。

### 3．構造化された保育者養成カリキュラムの概念図

これまで、一般に大学の授業は、個々の教員間での連携が十分ではありませんでした。本学保育学科では、養成を目指す保育者像に向けて全教員が共通認識をもつとともに、協力・連携しながら学生さんの援助を行います。また、すべての研究室担当教員が、それぞれに、2年間の指導において指導のテーマを持ち、2年間をトータルに展望した授業展開を行うことが特徴となっています。

#### 実習を中心としたカリキュラムの構造化

実習の重視は、本学保育学科の優れた特徴です。他の諸科目すべてが、実習担当教員との密な連携をはかりながら展開されます。

#### 自己教育力育成を目指したカリキュラムの構造化

本学保育学科の特色は、単なる小手先の保育技術の習得に満足するものではありません。これから、ますます多様化する保育ニーズに、主体的に対応することのできる能力の育成を目指しています。

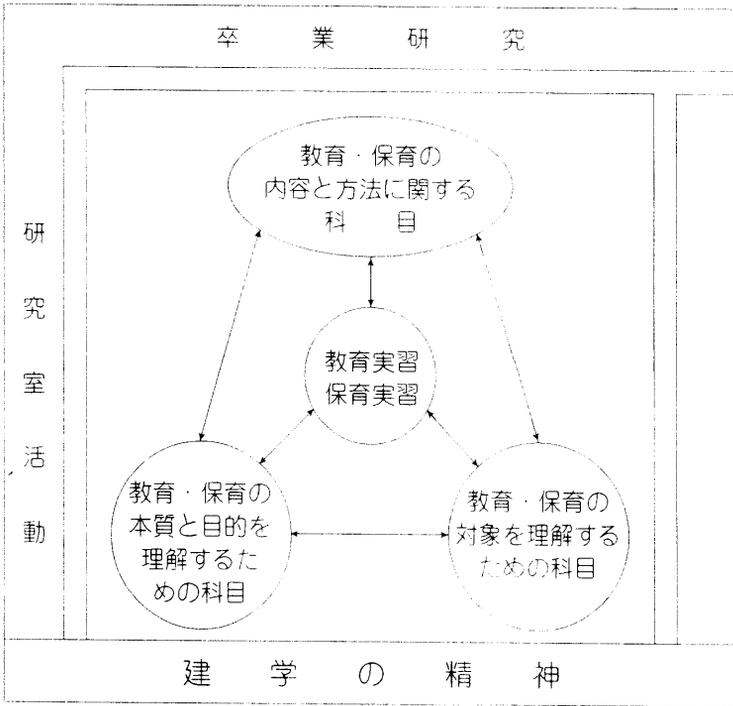
#### 個々の研究室担当教員による2年間を展望したカリキュラムの構造化

すべての研究室担当教員は、2年間の指導に当たり、テーマをもって、懇切・丁寧に学生指導に努力します。

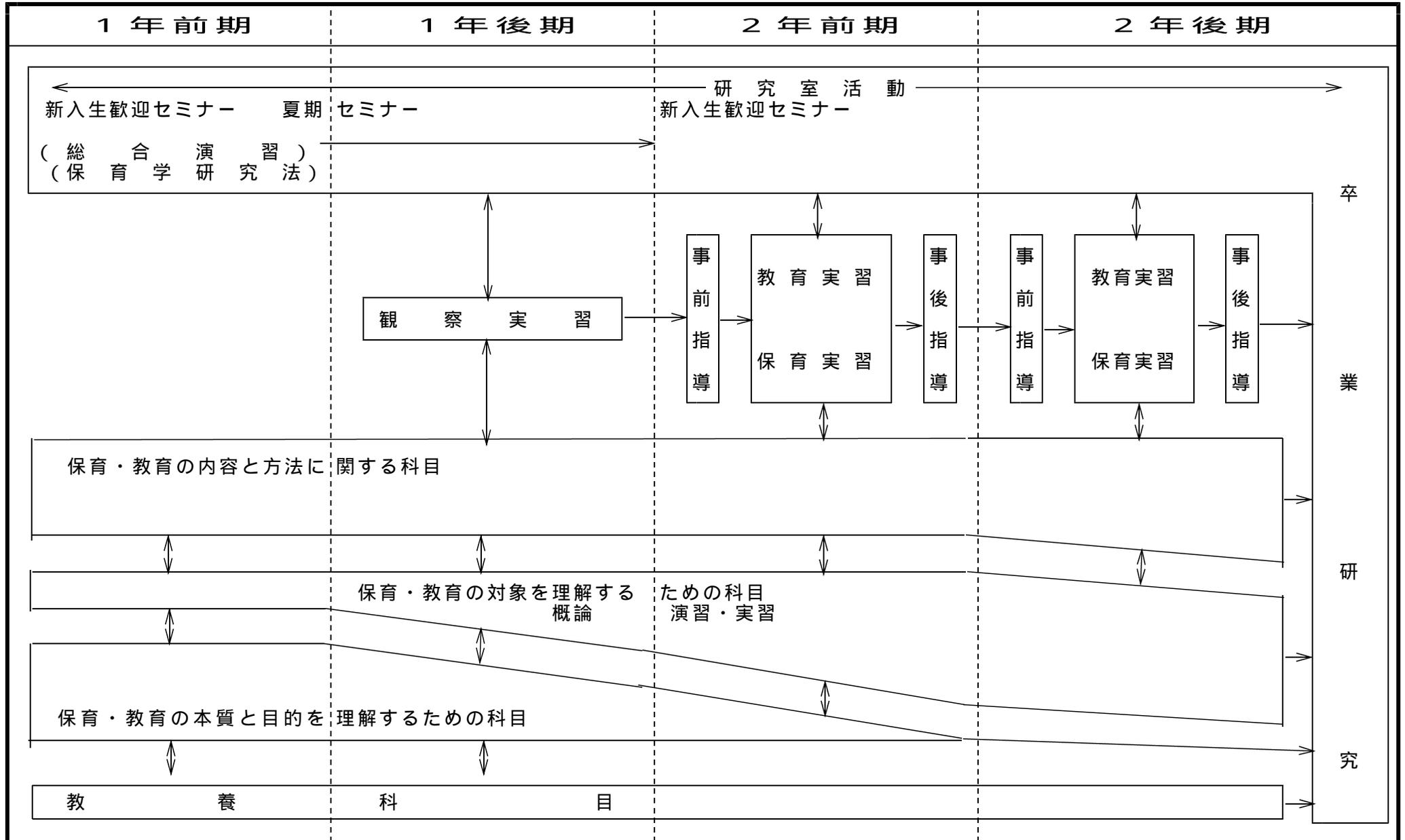
# 1. カリキュラムの概念図



△

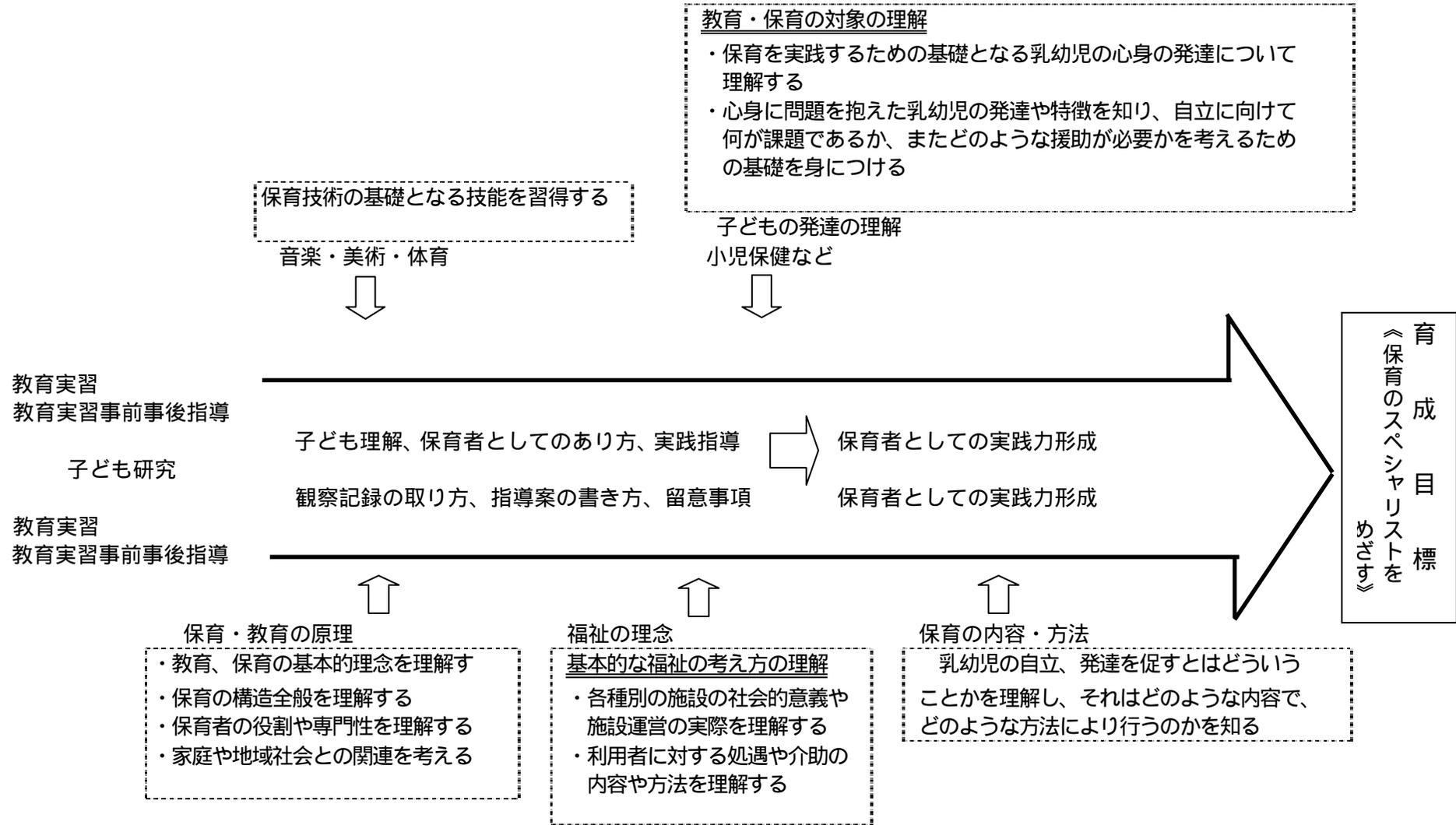


2. 保育学科カリキュラム系統概念図



# 構造化されたカリキュラム

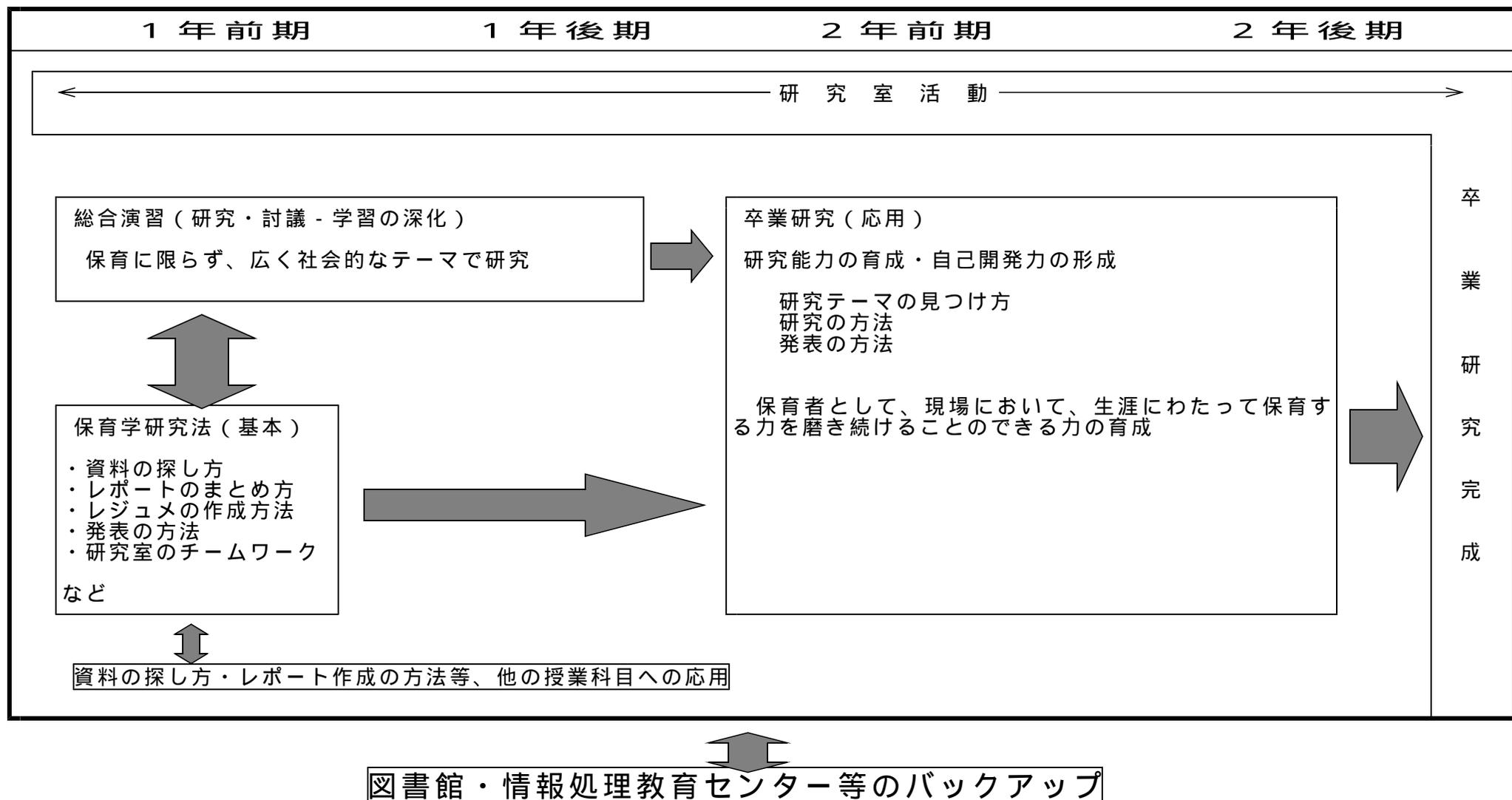
## 実習を中心とした実践力の育成



## 構造化されたカリキュラム

保育者に求められる自己教育力の育成

保育学科では、自ら学び、自ら保育の力量を高めるべく、研究するための力の形成を目指しています。



# 構造化されたカリキュラム

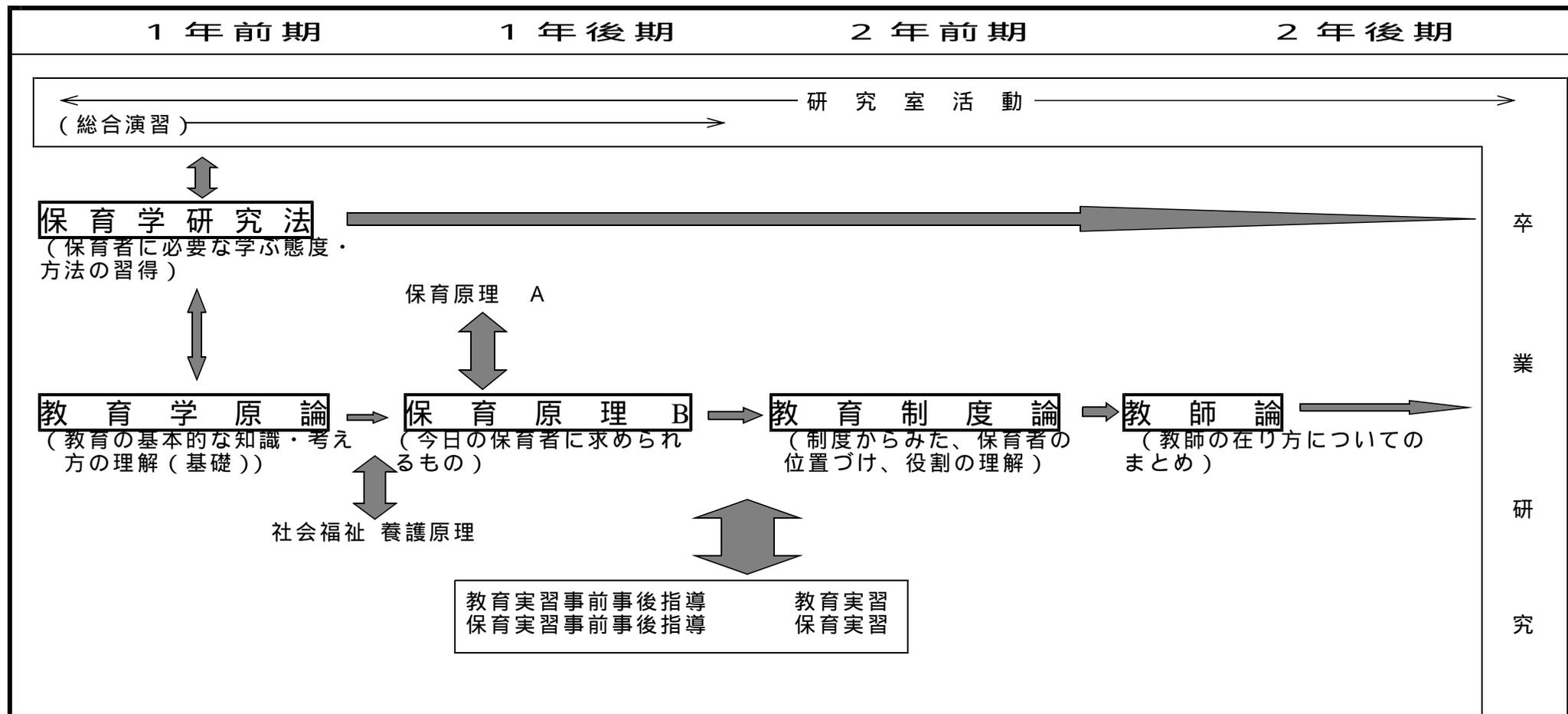
## 教員個人の指導の系統性 1

(保育者としての態度形成)

松原勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

私の授業では、保育者としての基礎知識の獲得を通して、「保育者としての態度形成」をはかることをテーマに2年間の授業を考えています。実習の事前事後指導や実習との連携をはかりながら、理論や制度がどのように保育の現場を支えているかを一緒に見ていきましょう！

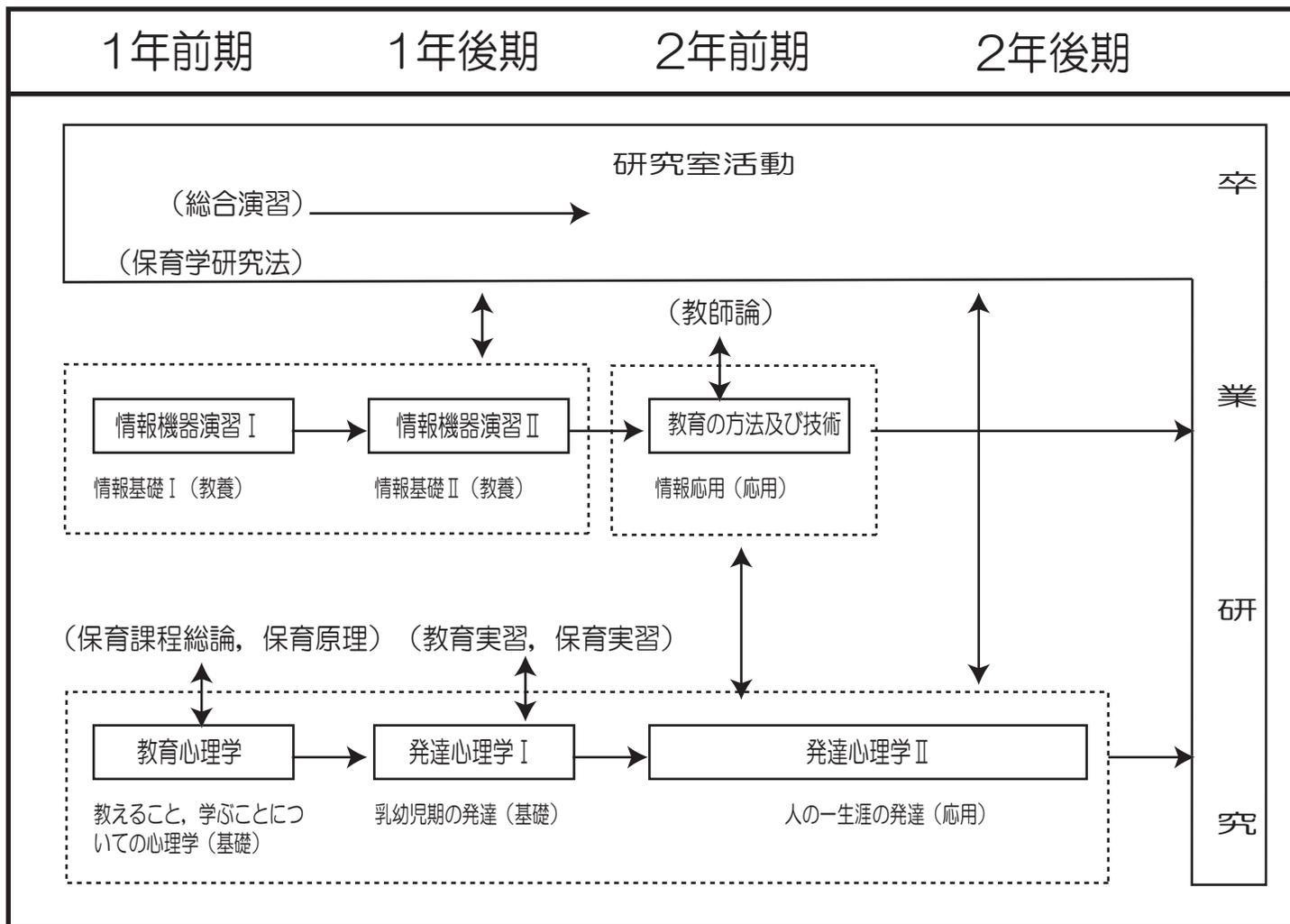
そして、保育の理論と実践の二つの面をしっかりと身につけた保育者になってください！



教員個人の指導の系統性  
(教養, 保育の対象の理解)

西浦和樹 (NISHIURA Kazuki)

私が担当する授業は、コンピュータを使った情報系の授業、心の働きを講義する心理学系の授業を担当します。情報系の授業では、便利なパソコンの使い方の習得を目指します。携帯電話のメールと同じで、1年ほどかければそこそこ使いこなせるようになるでしょう。心理系の授業では、保育現場で子どもの心の動きを理解できるように、ごくごく基本的な事柄を学ぶことができます。すべては、総合演習や卒業研究につながり、保育現場でも役立つでしょう。

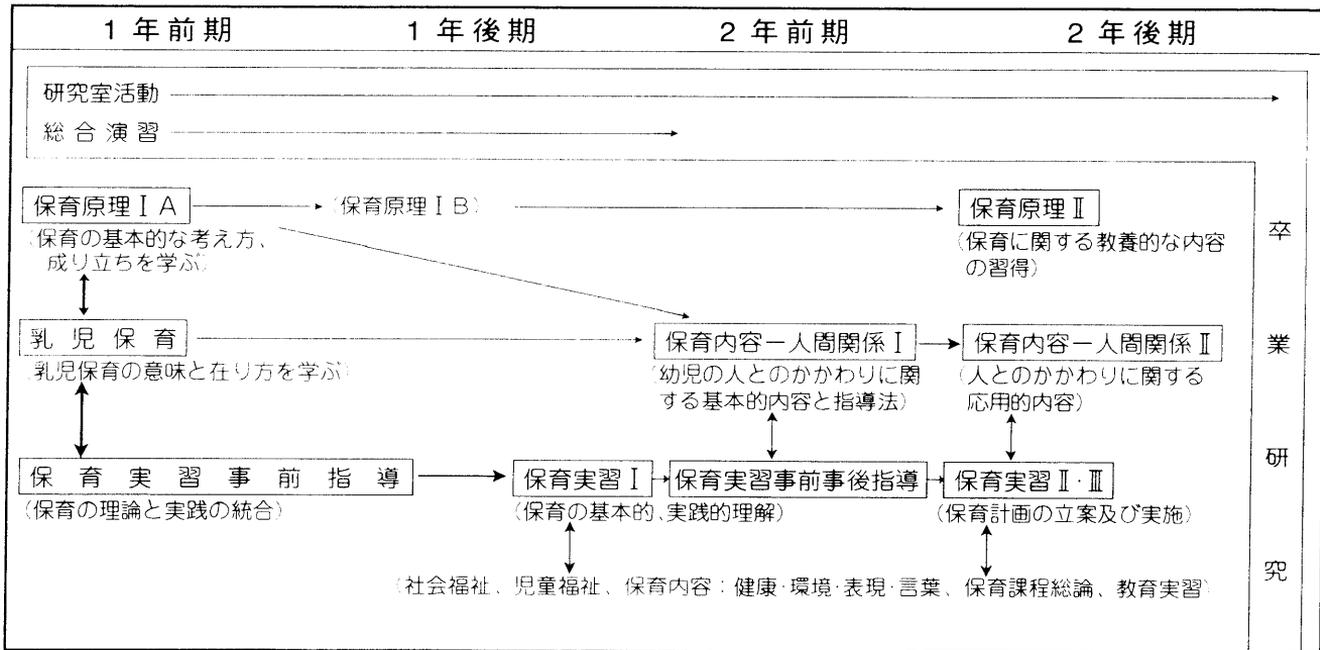


### ③教員個人の指導の系統性 3

坪井貴子 (TSUBOI Takako)

(保育の基礎を培い、  
人間性の育成をはかる)

担当科目が、カリキュラム系列中、「教育・保育の本質と目的」、「教育・保育の内容と方法」、「実習」にわたるため、2年間で保育を総合的に扱い、理論、実践両面から保育の専門性を養う。さらに、保育に関する学習や実習を通して、子どもの発達や生活の重要性を理解し、自分自身の見直しをはかってほしい。

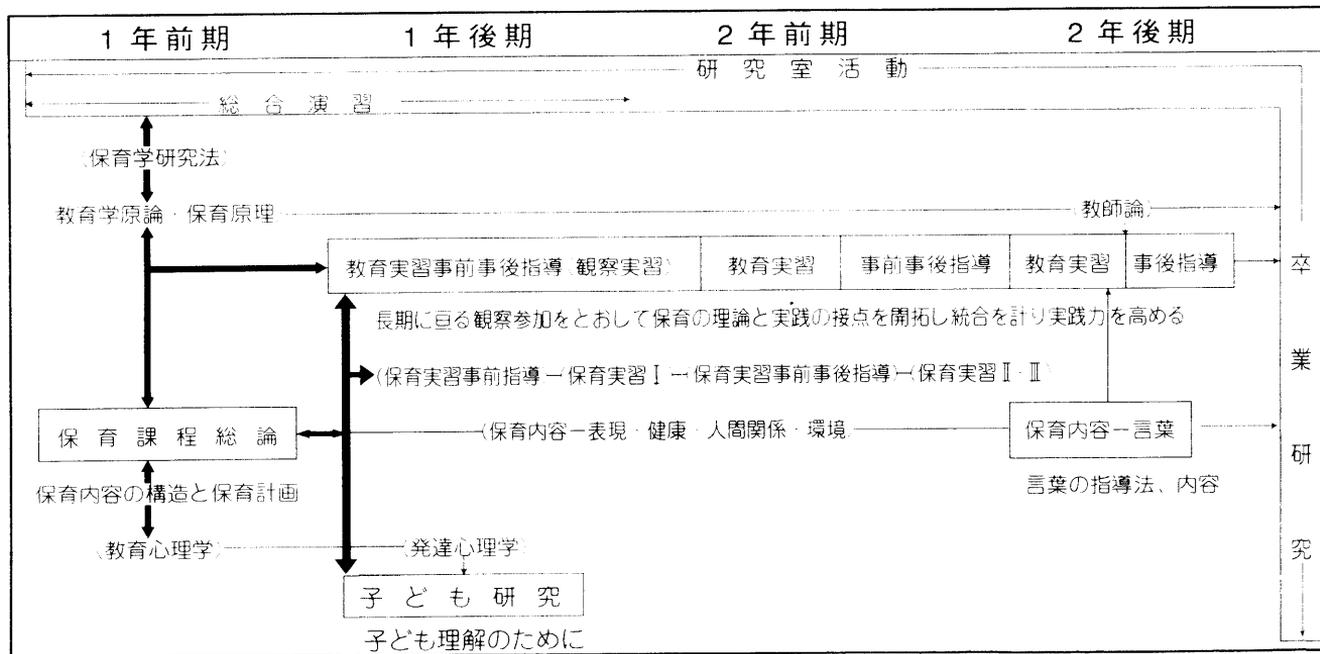


### ③教員個人の指導の系統性 4

井上範子 (INOUE Noriko)

(実習をとおして豊かな  
人間性の育成を目指す)

私の授業では、私自身が現場を預かっている関係上「保育者はこうあってほしい」との  
思いを込めて授業を進めています。保育者は、常に全人格をさらけだして子どもと直接ふ  
れあって生活するので、大いに自分磨きに努めましょう。

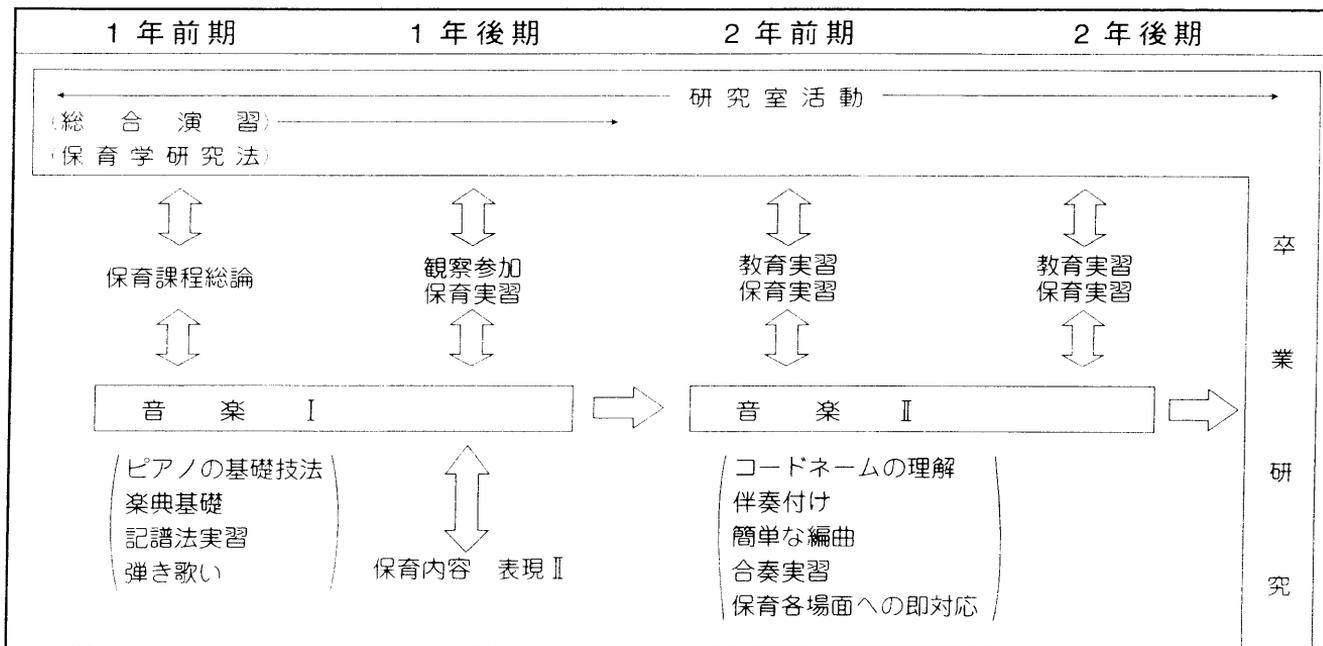


### ③教員個人の指導の系統性5

柴田玲子 (SHIBATA Reiko)

(音楽を中心とした  
保育技術の獲得)

子どもはみんな音楽が大好きです。生活の中のあらゆる場面で、聞こえてくる音に敏感です。歌をうたってピアノで伴奏するだけでなく、広い意味で音楽を使うことのできる応用力を身につけ、心の通う保育を目指してほしいと思います。



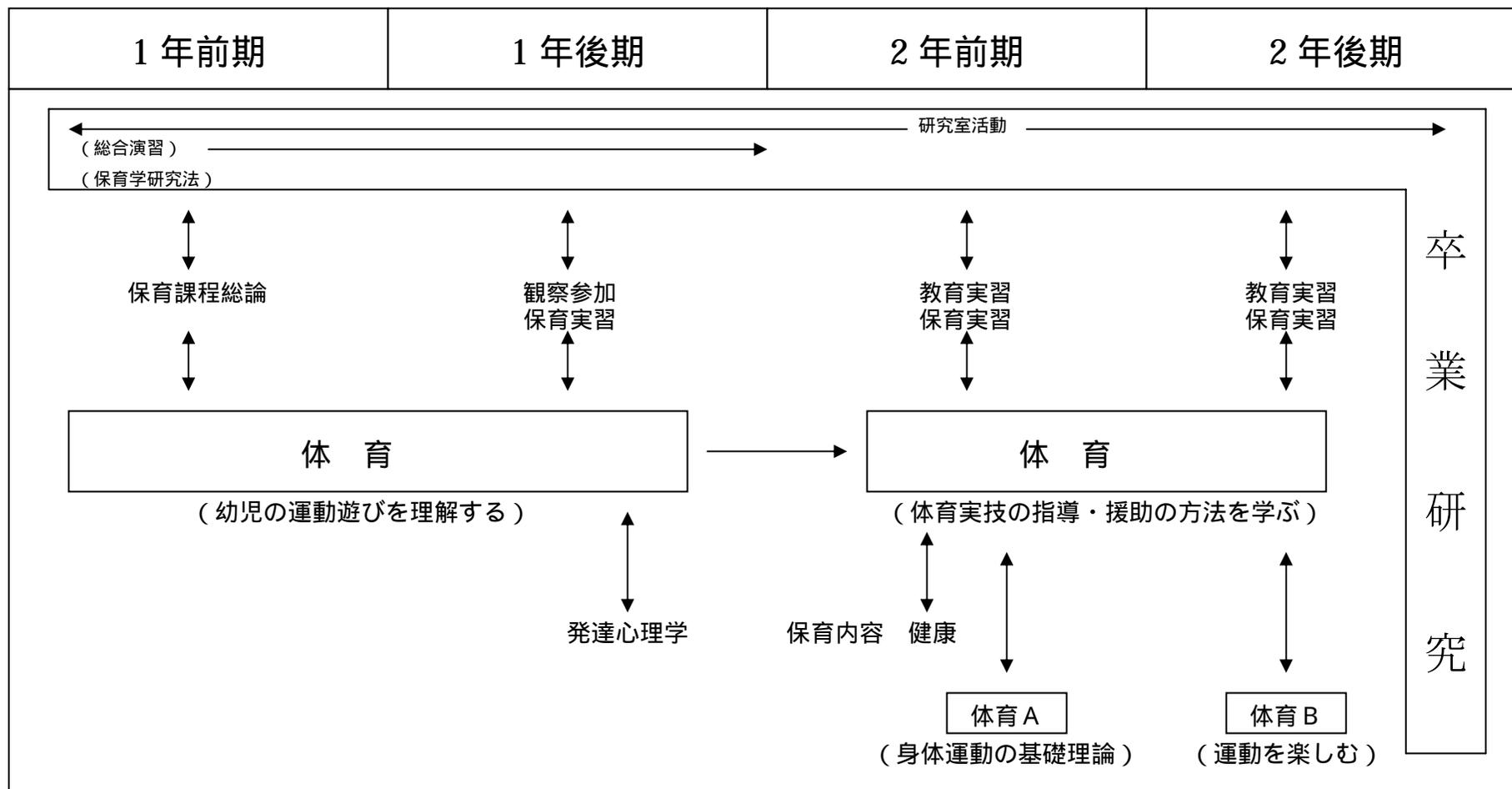
## 教員個人の指導の系統性 6

(明るく元気な保育者の育成を目指す)

池内 裕二 (IKEUCHI Yuji)

年齢に見合った運動遊びにはどのようなものがあるか調べる。運動遊びを楽しく安全に行うための指導・援助の仕方を学ぶ授業です。

また、保育者自身が健康の大切さを理解し運動の楽しさ、喜びを体験し生涯にわたって日常生活の中で運動を行う態度を育てる。



### ③教員個人の指導の系統性 7

(保育内容、  
保育技術の獲得)

田中美季 (TANAKA Miki)

皆さんは、子どもたちの前に立った時、自分の中のどの引き出しを開けて、どんなものを子どもたちに見せますか？私の授業の中で、その引き出しをどんどん増やして、その引き出しの中にいろいろなものをつめ込んでください。

